

特別活動は自己有用感を高め自己肯定感を育みます

日本の子ども達は諸外国の子ども達に比べて自己肯定感が低いことがさまざまな国際比較調査から明らかになっています。自分に自信がない状態では、「どうせやってもうまくいかない」と物事に意欲的に取り組むことができず、のびのびと成長するさまたげになってしまいます。

特別活動には、人の役に立つ喜びを感じられる活動が多く含まれています。例えば、たてわり活動では、年長の子どもが年少の子ども達のお世話をすることで、「自分も役に立てた」「小さい子に喜んでもらえた」と、人々から受け入れられ、自分は学級や学校に必要な存在であるという感覚を得ることができます。また、係活動や委員会活動でも、「学級や学校のためになることをした」「人の役に立てた」と自己効力感や自己有用感を感じることができます。これらの自己存在感・自己有用感・自己効力感は自己肯定感を高め、人生をのびのびと生き抜く基盤となります。

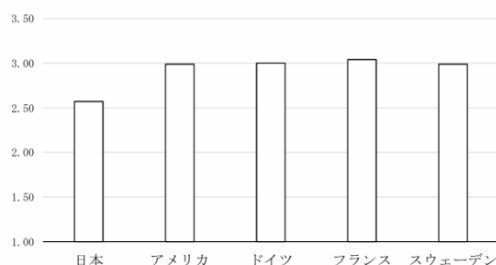
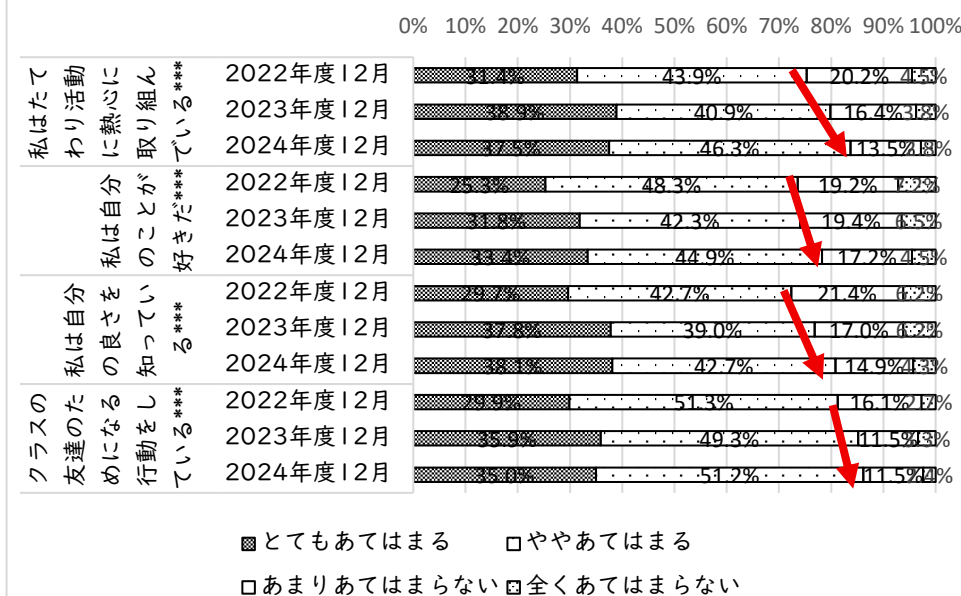


図1 国別の自分への満足感
（出典）我が国と諸外国のこどもと若者の意識に関する調査（令和5年度）124頁

図2 3年間の子どもの変容（小学校）回答数5586人



関西地方にあるA市では、教育長のリーダーシップのもと、2022～2024年度の3か年に自己肯定感を高める取り組みを行いました。全市の小中学校で特別活動、特に「話し合い活動」「たてわり活動」を中心に学校づくりに取り組んだ結果、子ども達の意識に変化が生まれました。そのうち小学生の変化を示したのが図2です。たてわり活動に積極的に取り組む児童の割合が増加し、「自分のことが好きだ」「自分の良

さを知っている」という自己肯定感を測る質問へ肯定的な回答をする児童の割合が増加し、統計的な有意差がみられました。（参考）データはA市内の全小中学生を対象とした悉皆調査より。データ使用についてはA市より許諾を得ています。

特別活動で日本の子ども達の自己肯定感を育てましょう！